

## 第1回 知多市家庭系収集ごみ有料化検討会議（要約）

○日 時：平成26年7月11日（金）15時00分～17時00分

○場 所：知多市役所1階多目的会議室

○出席者：知多市長 宮 島 壽 男

委 員（学識経験者） 2名

委 員（市内在住者）10名（うち1名途中退席）

事務局（市職員） 7名

### 1 家庭系収集ごみ有料化に取り組むことについて

知多市のごみの排出について、1人1日当たりの排出量で比較すると、県内平均値を大きく上回っており、ごみの減量が進んでいない状況です。

また、資源回収についても、他の自治体に先駆けて取り組みを始めたものの、回収量は年々減少しており、ごみの減量と資源化の推進が喫緊の課題となっています。

こうした現状を踏まえて、知多市では「家庭系ごみの有料化に向けた検討」と「資源回収方法の見直し」を行い、早ければ平成28年度に家庭系収集ごみの有料化を導入したいと考えています。

ごみの減量と資源化の施策を進めていくためには、市民と行政が一体となった意識改革が不可欠です。この検討会議では、委員の皆さまから貴重なご意見をいただき、家庭系収集ごみ有料化の基本的な考え方をまとめていきたいと考えています。

### 2 議題

#### (1) 知多市のごみ処理の現状と家庭系収集ごみ有料化の必要性について

##### <主な質疑など>

**【Q1】 現在の指定ごみ袋制度は有料化ではないのですか。**

**【A1】** 指定ごみ袋制度は広い意味では有料化と言えますが、現在の指定ごみ袋は、袋に掛かる経費（作製費、販売費等）を負担していただいているもので、ごみ処理費用の負担を求めているものではありません。今回の「有料化」はごみ処理に係る多額の費用の一部を手数料という形で排出者に負担していただくもので、この

形の収集ごみ有料化は、全国で約6割の市町村で導入されています。

**【Q2】 有料化した他市の例を見ると、何年後かにごみ排出量が増加しています。いわゆるリバウンド現象が起きているのではありませんか。**

【A2】 有料化の3、4年後に、一旦減少したごみ排出量が増加する例が見られるようです。制度の定着に伴ったリバウンドの影響も考えられますが、年度によるごみ排出量の変動もあるので、一概にリバウンドと言えるかどうかは分かりません。

**【Q3】 資源回収の方法は有料化の検討に合わせて変えていくのでしょうか。**

【A3】 資源回収の開始当初は、地域と協働した先駆けた取り組みでしたが、現在では、他自治体が資源化を積極的に進めてきたこともあり、遅れを取っている形です。

ごみ減量を推進する中で、資源化をより進めることも大切なことです。今回の検討の中で、こういったものも資源として集めるとよいといった意見などをいただきながら、資源回収についても見直していきたいと考えています。

**【Q4】 有料化した自治体の中で、紙おむつが多く排出される乳児や高齢者などの方がいる家庭に配慮をした施策をしているところはあるのですか。**

【A4】 紙おむつなど排出量の削減が困難な世帯について、方法は様々ですが、手数料を配慮する対応をとっている自治体は比較的多くあります。

**【Q5】 学校のプリント類などの紙は資源として出してもよいですか。**

【A5】 資源回収している紙の分類で、新聞、ダンボール、牛乳パック以外の紙については「雑誌」とし、主に冊子をイメージする表記となっています。

雑誌は、その他の紙「ぎつがみ」のことで、資源として出していただけますが、市民に十分に伝えきれていないと考えられます。現在の資源回収品目についても、分かりやすくしていきたいと考えています。

**【Q6】 子どもがごみに関する学習をする機会がありますか。**

【A6】 小学校4年生を対象に、毎年5月に清掃センターとリサイクルプラザの見学を実施しています。その他の方については「エコツアー」（環境政策課が開催）で、

少人数にはなりますが、見学・学習していただいています。

### ＜主な意見など＞

- 【1】 有料化をすれば必ずごみが減るという訳ではなく、何年後かにはリバウンドが起きることもあります。有料化の検討では、リバウンドが起きないように形を目指していく必要があると思います。
- 【2】 1人1日当たりのごみ排出量をごみ減量の指標にしていますが、ごみは世帯単位で排出され、ごみ袋を購入するのも世帯単位です。多人数世帯と単身世帯や夫婦のみの世帯などを比べると、1人当たりのごみ排出量に差があるため、ごみ排出量に比例した負担を世帯に求めることは、公平性を考えると課題があると思います。
- 【3】 有料化の目的として、ごみの減量と資源化を進めることが、住民のメリットとなる、うれしいことであると、しっかりとPRすることが大事であると思います。
- 【4】 ごみと資源の排出に関するルールの周知が行われると、もっとごみを減らすことができるのではないかと思います。皆がルールを適切に知っていれば、取り掛かりやすくなると思います。
- 【5】 子どもたちがごみの出し方を知るとというのが一番大事だと思います。学校へ出向くなど、子どもへの環境教育をもっとやっていくことがよいと思います。

### (2) 家庭系収集ごみ有料化の概要について

#### ＜主な質疑など＞

- 【Q1】 排出量に手数料が比例する方法（排出量単純比例型）、一定量までは無料で、それを超えると手数料がかかる方法（一定量無料型）か、どちらの方法を考えていますか。
- 【A1】 多くの自治体の例を見ると、排出量に手数料が単純に比例する方法が、最も分かりやすく、ごみ減量に効果があると考えています。

一定量までは無料とする方法は、手続きが非常に煩雑であり、費用も非常に掛かる方法であると考えています。

### ＜主な意見など＞

- 【1】 ごみ処理施設の建設を東海市と共同で進める中で、同じ焼却場を使用するようになると東海市と知多市でごみ処理に掛かる手数料が異なる場合には疑問が残ります。
- 【2】 ごみ袋を無料で配ることは、知多市では困難だと思います。現在の指定袋でも市からの配布はない中で、新たに配布することは難しいのではないかと思います。また、市の財政面から見ても難しいのではないかと思います。
- 【3】 東海市と知多市のごみ処理施設が共同利用になっても、地域の力も、財政の状況も異なるので、それぞれの地域の実情に合わせてやっていけばいいと思います。
- 【4】 有料化については、資源回収の見直しと合わせて実施するといいと思います。
- 【5】 資源の出し方については、毎年、資源の出し方のチラシを配るだけではなく、周知について再度しっかりと考えていく必要があります。各地区の協力も得られると思います。
- 【6】 ごみの減量には、資源になる物をごみとして排出しないことが必要です。きちんと分別していけば、必ず一定量のごみは減っていくと思います。そのためには、有料化と同時に資源回収にも力を入れていく必要があります。
- 【7】 資源の地域回収量が減った原因として、資源の売却代以外の奨励金がなくなったことがあると思います。財政的に難しいかもしれませんが、資源売却代に加えた奨励金について再考してほしいです。
- 【8】 市の人口は平成21年度をピークに減少し、世帯数は増加し続けている中で、単

身世帯の方などは資源回収の日にちに都合が合わないために、資源となる物をごみとして出している方も多くいると思うので、こうした問題も解決していく必要があります。

- 【9】 地域の資源回収について、例えば、朝の7時から8時の間に地区の当番の方が受付していますが、地区によっては受付などに参加することが困難となっている人が多くなっており、皆が参加できる方法にしていかなければいけないと思います。